

Marine Snow

@asamushi aquarium



2015

入館者1,000万人達成 佐藤 康也

平成26年8月15日浅虫水族館の入館者が昭和58年7月の開館から32年目に1,000万人を達成することができました。ご利用いただいた皆様に感謝申し上げます。めでたく1,000万人目となったお客様は秋田県鹿角市からお越しの安保 有君5歳、家族6人でのご来館でした。1年のうちでも非常に入館者の多い時期の達成セレモニーの実施ということで、準備を入念に行い達成予想日に臨みましたが、何とか無事に終えることができました。

今年度は、夏休み頃に1,000万人を達成しそうだということで、1000万人達成記念イベントを企画して6月頃からイベントを開始しました。まず、達成前イベントとして実施したのは、館内のお客様に浅虫水族館へのメッセージボードを持っていただき、記念撮影した写真を貼りつけていくメッセージピクチャーボードの設置です。これには300人近い皆様にご協力をいただきました。また、ペア入館券と浅虫水族館オリジナルにこだわった特別体験チケットが当たる達成日予想クイズも実施しました。

達成日当日からは、1,000万人達成を記念して、9月30日までに年間パスポートを購入した人の中から抽選で50名様に1,000日間有効な記念パスポートをプレゼントしました。

そして、達成後イベントとして企画したのが、生き物人気投票、題して「ASM48総選挙」、これは浅虫水族館の生き物の中



から48種類を選抜して来館者の皆様に人気投票をしていただくというのですが、トップの予想が高いイルカからは、バンドウイルカの「ピッピー」とカマイルカの「スマイル」がエントリーしましたが、意外にも？トップの座を射止めたのは、ゴマフアザラシの「ゆき」でした。しかも、カマイルカの「スマイル」を押さえて3位になったのは、なんとアオウミガメでした。浅虫水族館の本当の人気者は、お客様と非常に近いところで接している生き物だったようです。

浅虫水族館は、おかげさまで入館者1,000万人を達成することができましたが、更に上を目指して皆様に愛される水族館となるよう努力を続けていきます。

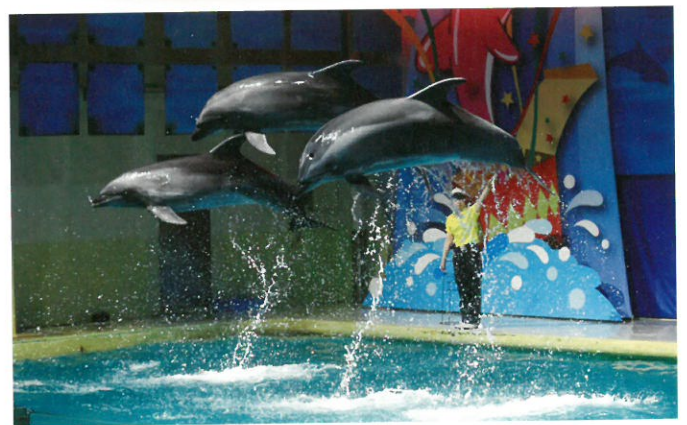
新イルカパフォーマンス 竹鼻 瞭

浅虫水族館入館者1,000万人達成という大きな節目は、当館の未来を考える良い機会にもなりました。この先1,500万人目、2,000万人目のお客様に来て頂くにはどうすればいいのだろうか？全国には100以上の水族館がある中で、どうすれば浅虫水族館に来てもらえるだろうか？私たちはその地域の特色を出すことが大切なのではないかと考えました。

今回の新イルカパフォーマンスはそれを象徴するような構成になっています。

浅虫水族館では2年ごとにパフォーマンスを新しくしており、今回のテーマを「郷土感溢れるイルカパフォーマンス」として、ステージの装飾やBGMにこだわりました。

ステージの両サイドにはイルカとマスコットキャラクターの「こころちゃん」が描かれており、ステージ上部には音符の形をしたりんごや津軽三味線、ねぶたで使用される太鼓や笛の飾りが施されています。県内からお越しになるお客様はもちろん、県外からのお客様にも一目で「青森の水族館だ」と感じていただけたと思います。BGMは青森ならではのものを選択しました。青森ねぶたのお囃子から始まり、クライマックスであるジャンプパフォーマンスは大迫力の津軽三味線の音色に乗せて、エンディングは「青森県民の歌」である「青い森のメッセージ」



を使用しています。

目で見て、耳で聞いて「青森」を感じていただけることでしょうか。私たちはこの新しくなったイルカパフォーマンスを通して、県外のお客様にはこの青森県の魅力を知ってもらいたい、県内のお客様には浅虫水族館や青森を誇りに思ってもらいたいという想いで、日々イルカたちと共に頑張っています。

そしてイルカという動物の素晴らしさ、ひいては自然や生物の多様性についてなど、自然と向き合うきっかけになれば、水族館に足を運んでくださったお客様や子どもたち、そして私たちも共に成長できる、そんな水族館に近づけると考えています。

輝きの回遊～初のカタクチイワシ単独展示～ 久保 真司

平成26年10月、近くの磯に採集に行った際、潮溜まりに数千匹のカタクチイワシが取り残されているのを見つけました。すぐさま水族館に戻って、準備を整え、採集しました。

その後、仮設の水槽でしばらく養生し、円柱水槽へ約800尾というまとまった数で展示しました。本種は、全国各地に広く分布し、沿岸から沖合の表層を群泳し、プランクトンを鰓でろ過して食べます。また、上あごが大きく口が片方だけに見えることが和名の由来です。寿命は2～3年で、採集時の体長は約7cmで生後約半年とみられます。餌として、初めは、釣りでまき餌として利用されているツノナシオキアミを与えていましたが、餌が少し大きいことと、全体にいきわたらないためか、痩せた個体が現れてきました。そのため、人工飼料や冷凍コペポードも与えたところ、口を広げて元気よく食べる行動が多く見られるようになり、痩せた個体も少なくなってきたように思われます。また、餌を与えると、それまでゆっくりと水槽内を回遊していたのが、我先にと泳ぎまわり、魚体が無数のフラッシュの様にピカピカと銀色に輝き、その光景は本当にきれいでお客様の目を楽しませています。今回のように大量に取り残されたカタクチイワシに遭遇したのは、開館32年目にして初めてのことです。大型魚に追われて逃げてきたのか、餌を求めてやってきたのか、その真相は謎のままです。



展示の様子



餌の時には



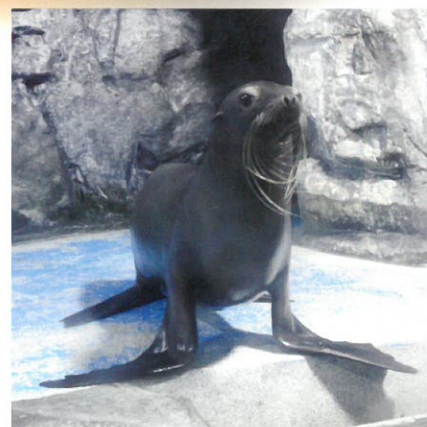
口を大きく広げます

アシカの世代交代

小野寺 美奈

平成26年11月7日、浅虫水族館に新しい仲間が増えました。カリフォルニアアシカの9歳のメス、「ツバキ」です。ツバキはブリーディング・ローンにより愛知県の南知多ビーチランドからやってきました。

ツバキは当館のメスのアシカ「ヨン」と平成26年1月に死亡したオスの「エイブ」の孫娘に当たります。ツバキの仕草や顔つきはやはりエイブとヨンの血を引き継いでいると思えることが多く、飼育スタッフとしては特別な存在に感じられました。バックヤードでツバキとヨンが対面を果たしてから21日後の11月28日、推定年齢29歳でヨンが死亡しました。大きな存在だった2頭の死は辛いものがありましたが、その血を引き継ぐツバキには、これからの浅虫水族館を担っていく存在へと成長してほしいと期待しています。



アザラシと漁業の共存を目指して 小野寺 美奈

浅虫水族館では北海道大学北方生物圏フィールド科学センターとの共同研究として、ゼニガタアザラシを飼育しています。今年は摂餌履歴を調べるための給餌実験や、漁業被害への対策を考えるため、定置網に対する行動を観察しました。



展示プールに定置網の模型や生きたサケを実際に入れると、最初は見慣れない物に驚いていたアザラシ達も時間が経つと興味を持って近づいたり、サケの尾びれをかじってみたりと様々な行動が見られました。もちろん、野生下と飼育下での行動の違いはあるでしょうが、これらの実験により、アザラシの生態や行動をより理解することで、アザラシと共存していくことに協力できれば、と考えています。



2014年の催し物

	Winter		3月	Spring		Summer			9月	Autumn		Winter
	1月	2月		4月	5月	6月	7月	8月		10月	11月	12月
社会教育活動	☆イルカウォッチング 6/1		☆イルカウォッチング 6/1		☆地引網体験 7/13			☆磯観察 9/14		☆図鑑を作ろう 10/26		☆イルカトレーナー体験 11/30
	☆イルカウォッチング 6/1		☆イルカウォッチング 6/1		☆地引網体験 7/13			☆磯観察 9/14		☆図鑑を作ろう 10/26		☆イルカトレーナー体験 11/30
コンクール	☆図画版画展 10/5~3/31		☆図画版画展 10/5~3/31		☆図画版画展 10/5~3/31			☆図画版画展 10/5~3/31		☆図画版画展 10/5~3/31		☆図画版画展 10/5~3/31
写真展	☆写真展 2/1~3/31		☆写真展 2/1~3/31		☆写真展 2/1~3/31			☆写真展 2/1~3/31		☆写真展 2/1~3/31		☆写真展 2/1~3/31
トンネル水槽のランチ	☆トンネル水槽のランチ 2月の日曜日開催		☆トンネル水槽のランチ 2月の日曜日開催		☆トンネル水槽のランチ 4/27 5月の日曜日開催			☆トンネル水槽のランチ 夏祭り期間中と8月の日曜日開催		☆トンネル水槽のランチ 10月の日曜日開催		☆トンネル水槽のランチ 12月の日曜日開催
恒例イベント	☆新春祭り inあさむし水族館 1/1~1/5	☆桜祭り inあさむし水族館 4/26~5/6		☆夜の水族館見学会 毎週土曜日			☆水族館に泊まろう 7/5~7/6	☆夏祭り inあさむし水族館 7/19~8/24	☆水族館に泊まろう 10/4~10/5		☆夜の水族館見学会 毎週土曜日	
今が旬水槽	☆千支水槽 1/1~1/13		☆香備湯水槽 4/26~5/6		☆スルメイカ!展示 7/19~8/24			☆「澤登鏡」展示 7/19~8/24	☆クリスマス水槽 11/10~12/25		☆夜の水族館見学会 毎週土曜日	
特別企画展	「江戸時代の人が見た海の生き物たち」展 4/11~6/29		「大正・昭和の勝馬展」展 7/1~9/30			「セニガタザラシの遊動・死にも」展 7/19~8/31		「雨と生きもの」展 9/6~9/28		「江戸時代の人が見た海の生き物たち」展 4/11~6/29		

飼育生物

	種類			点数		
	種	増	減	数	増	減
海水魚	176	2	6	4,252	433	82
淡水魚	53	0	1	1,656	3	168
無脊椎動物	79	2	5	2,759	15	43
両生類	10	0	0	73	0	0
爬虫類	3	0	0	8	0	0
イルカ	2	0	0	10	0	3
アシカ	1	0	0	4	2	2
アザラシ	2	0	0	7	0	1
ペンギン	1	0	0	9	0	1
合計	327	4	12	8,778	453	300

2014年12月31日現在

入館者数

	一般	団体	無料	合計
1月	7,294	1,439	2,962	11,695
2月	3,299	1,798	1,974	7,071
3月	10,649	2,515	4,451	17,615
4月	12,041	1,527	4,415	17,983
5月	27,269	4,617	10,042	41,928
6月	12,830	9,002	7,606	29,438
7月	16,946	5,982	8,474	31,402
8月	47,412	7,463	14,737	69,612
9月	14,219	4,714	7,000	25,933
10月	9,986	3,695	6,004	19,685
11月	10,918	2,961	5,264	19,143
12月	4,348	1,110	1,709	7,167
合計	177,211	46,823	74,638	298,672

入館料金

区分	一般・高校生	小・中学校	幼児
個人	1,020円	510円	無料
一般団体	10人以上	460円	無料
	30人以上	410円	無料
学校団体	510円	260円	無料
年間パスポート	2,570円	1,280円	

- 開館時間 / 09:00~17:00 (入館は閉館30分前まで)
- 休館日 / 年中無休 (年末年始も休まず営業)

2014年の出来事

- ・ 1月30日 伊豆三津シーパラダイスからカリフォルニアアシカ1頭搬入
- ・ 2月28日 伊豆三津シーパラダイスにゴマファザラシ1頭搬出
- ・ 3月14日 むつ市大畑町よりカグラザメ搬入
- ・ 3月14日 長崎ペンギン水族館にイトビペンギン1羽搬出
- ・ 7月24日 新イルカショースタート
- ・ 8月15日 入館者1000万人突破
- ・ 11月7日 南知多ビーチランドからカリフォルニアアシカ1頭搬入
- ・ 11月11日 カタクチイワシ初展示
- ・ 12月10日~12日 セニガタザラシ水槽に定置網を入れ、行動観察
- ・ 12月17日 団体休憩室に「海の生き物コーナー」設置
- ・ 12月25日~26日 セニガタザラシ水槽に生きたサケを入れ、行動観察

表紙説明:カグラザメ

水深2,000mまでの深海に生息するサメで、6対の鰓裂を持つのが特徴です。

2014年2月28日にむつ市沖の定置網に掛かっているのを発見されました。県内では初めての捕獲です。

マリンスノー No.33

2015年3月発行

青森県営浅虫水族館

〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25

TEL 017-752-3377

FAX 017-752-3379

http://www.asamushi-aqua.com